Japan Geoscience Union Meeting 2013
(May 19-24 2013 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2013. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved

O02-P1 会場:コンベンションホール 時間:5 月 19 日 13:45-15:15

埼玉県に被害をもたらした歴史地震

長江有祐 [1*]，荒井賢一 [1*]，齋藤隆 [1]，浜橋一徳 [1]，増田滉己 [1]，平原優美 [1]

[1] 栄東高等学校

歴史地震の記録を丁寧に調べ、後世に情報を伝承していくことは、今後の地震防災（減災）を考える上で必要不可欠である。地震国である日本列島には、過去に発生した災害について記述された記録が各地に存在し、先人からのメッセージとして後世に伝承されるべき教訓を読み取れるものも多い。埼玉県に被害をもたらした歴史地震のうち、西埼玉地震（1931 年）、関東地震（1923 年）、安政江戸地震（1855 年）、川越・蕨の地震（1791 年）、関東諸国の地震（818 年）について、県内に残されている記録を調査・収集した。文献やホームページで得た情報を手掛かりに、県内の神社や寺院・博物館・図書館等を訪れた。

さいたま市にある水神社に建てられている石碑には、神社のすぐ近くを流れる見沼代用水の完成時の様子が書き綴られており、その碑文の後半に関東地震についての記述があって次のように解読できる。「大正十二年九月一日に発生した大地震により、水神社に社殿が全壊し、30 余りの建物が倒壊した。その後復旧作業が迅速に進められ、（大正十三年に着工）翌十四年に落成した。」地震による自然災害を謙虚に受け入れ、復興を目指して地域ぐるみで協力し合って取り組む様子も伺える。関東地震（1923 年）の揺れによる被害に関して記述された石碑は、鴻巣市にある氷川神社にも建てられている。なお、氷川神社には、西埼玉地震による被害（鳥居の破損）について記された石碑も存在する。

一方、関東地震の発生後に、地震そのものによる被害とは別に、「朝鮮人が井戸に毒を流した」等の流言蜚語が飛び交って朝鮮人が虐殺されるという事件が関東地方各地で起こった。埼玉県内でも約 240 人が犠牲になり、その慰霊碑が県内の 6 つの寺院や墓地に確認されている。本研究では、熊谷寺大原墓地（熊谷市）・安盛寺（上里町神保原）・長峰墓地（本庄市）・常泉寺（さいたま市）・正樹院（寄居町）の 5 か所を調査した。例えば、常泉寺にある墓石の左面には、「追悼　関東大震災　忽然失命難　爲受災精霊　謹香華燈燭　供以伸供養　　平成十三年十二月吉日　当山第三十世大英元一合掌」と刻まれている。

安政江戸地震（1855 年）に関する記事や地震による被害の様相は、埼玉県立歴史と民俗の博物館（さいたま市）に保存されている「鯰絵」に描かれている。鯰絵を解読してみると、地震に対する教訓も読み取れる。

川越市にある喜多院の日記として 1758 年から 1870 年まで確認されている「喜多院日鑑」には、川越・蕨の地震（1791 年）および安政江戸地震についての記載がある。川越・蕨の地震による被害は、第一巻に次のように記録されている。「一，地震屆，尤廿七日夜四時之大地震，廿九日執當　衆へ屆，口上覺　昨廿七日之夜四ッ時頃大地震，御宮御内陣・御本地堂・十二神等無御別條候，乍然御内陣檀・鏡等も倒，御端籬其外破損場處多御座候，及大破候御場處故之事と奉存候，右爲御屆如此御座候，以上，」と書かれており、翌日以降の日記にもこの地震に関する記述が続いている。

関東諸国の地震（818 年）については、上記のような石碑や日記等には記録を見つけることはできないが、埼玉県文化財収蔵施設において、埼玉県埋蔵文化財調査事業団（2012）による埼玉県皿沼西遺跡（現在の深谷市）の調査結果を閲覧させて頂いた。それによると、液状化現象と見られる地震の痕跡が、遺跡の調査によって確認されていた。

日本では、地震は常に想定しなければならない自然災害である。地震そのもの（揺れによる建物の倒壊や液状化現象）による被害、パニック状態の中での流言蜚語（デマ）による人々の心理の乱れによって誘発された事件、どの事例についても、将来再び同様の被害が生じる可能性が考えられる。過去に起こった事例を教訓にすることは地震対策を考える上で必要不可欠である。歴史地震の各種記録のうち、石碑の碑文は長い年月のうちに文字が風化して読み取れなくなってしまう。本発表のように、調査結果を資料に残していく必要性を感じる。日頃から地震に関して積極的に学び、正しい知識を身に付けて、地震が発生した際には冷静に対処することが、真の防災（減災）対策といえるだろう。